



ESRI Research Note No.75

コロナ禍の生活環境と行動変容に関する調査 （2021年11月、2022年11月）の概要

小塩隆士、桑原進、中澤信吾、木村浩巳

March 2022



内閣府経済社会総合研究所

Economic and Social Research Institute

Cabinet Office

Tokyo, Japan

ESRI Research Note は、すべて研究者個人の責任で執筆されており、内閣府経済社会総合研究所の見解を示すものではありません（問い合わせ先：<https://form.cao.go.jp/esri/opinion-0002.html>）。

ESRI リサーチ・ノート・シリーズは、内閣府経済社会総合研究所内の議論の一端を公開するために取りまとめられた資料であり、学界、研究機関等の関係する方々から幅広くコメントを頂き、今後の研究に役立てることを意図して発表しております。

資料は、すべて研究者個人の責任で執筆されており、内閣府経済社会総合研究所の見解を示すものではありません。

The views expressed in “ESRI Research Note” are those of the authors and not those of the Economic and Social Research Institute, the Cabinet Office, or the Government of Japan.

コロナ禍の生活環境と行動変容に関する調査（2021 年 11 月、2022 年 11 月）の概要

小塩隆士、桑原進、中澤信吾、木村浩巳¹

要旨

一橋大学は、内閣府経済社会総合研究所との共同研究において、2019 年から 2022 年にかけて内閣府が実施した「満足度調査・生活の質に関する調査」と調査客体を接続する形で 2021 年 11 月、2022 年 11 月に「コロナ禍の生活影響と行動変容に関する調査」を実施した。本調査は、パネル化したミクロデータとして分析に利用することを前提として実施されたものであるが、集計結果にも様々な興味深い情報が含まれており、本稿は調査の全体像を解説するとともに、単純集計結果を公表するものである。本調査からは、2021 年 11 月からの一年間に回答者の生活全般の評価である生活満足度には変化がなかった一方、ストレスが低下していることや、健診を受ける割合が回復しつつあることなどが分かった。2022 年 11 月時点ではテレワークが定着する動きがみられることや、今後のワクチン接種に積極的な人が多いこと、感染予防行動も多く維持されていることなど、長期にわたる行動変容が起きていることも垣間見えた。

¹小塩隆士：一橋大学経済研究所教授、桑原進：内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官、中澤信吾：同総括政策研究官、木村浩巳：株式会社サーベイリサーチセンター主任研究員。本稿を執筆するにあたっては、亀坂安紀子青山学院大学教授、増島稔内閣府経済社会総合研究所長、林伴子同次長、出口恭子同上席主任研究官、村舘靖之同研究官より貴重な助言をいただいた。本稿は、2023 年 2 月 9 日に開催された一橋大学政策フォーラム・ESRI 政策フォーラム「コロナ危機に直面する私たちのウェルビーイング」において発表させていただいた内容を、フォーラムでの意見交換も踏まえ、加筆し、作成したものである。参加された各位にはあらためて感謝を申し上げる。なお、本稿中の見解、分析等はあくまで筆者個人のものであり、経済社会総合研究所のものではない。また、データや分析における誤り等の責任はすべて筆者に帰するものである。

目次

1. 経緯.....	5
2. 調査の実施概要	5
① 実施概要	5
② 一橋調査(2021 年 11 月、2022 年 11 月)の回答者の状況	6
3. 主な調査結果	8
① 主観的ウェルビーイング	8
(ア) 生活満足度	8
(イ) 主観的健康感	8
(ウ) ストレス	10
② 経験に関する認識	11
(ア) コロナウィルスへの感染	11
(イ) テレワーク	12
(ウ) 健診・検診頻度	13
(エ) ワクチン接種	14
(オ) オンライン診療	14
(カ) 感染症対策	15
③ 2022 年 11 月調査のみに含まれる項目	17
(ア) コロナ禍の収束に関する認識	17
(イ) 今後のワクチン接種意向	17
4. 結び	17
参考文献	18
参考図表	19

1. 経緯

一橋大学は、内閣府経済社会総合研究所との共同研究において、2019年から2022年にかけて内閣府が実施した「満足度調査・生活の質に関する調査」と調査客体を接続する形で2021年11月、2022年11月に「コロナ禍の生活影響と行動変容に関する調査」を実施した。本調査は、パネル化したマイクロデータとして分析に利用することを前提として実施されたものであるが、集計結果にも様々な興味深い情報が含まれており、本稿では調査の全体像を解説するとともに、単純集計結果を紹介する。

2. 調査の実施概要

① 実施概要

まず、一橋大学が行った調査の元となる内閣府の調査から実施概要を説明する。

内閣府「満足度・生活の質に関する調査」の概要

調査目的：我が国の経済社会の構造を人々の満足度（Well-being）の観点から多面的に把握し、政策運営に活かしていくこと。

調査方法：インターネット調査

調査期間・回答者数：

1回目：	2019年1月25日～2月7日・回答者数10293
2回目：	2020年2月7日～2月20日・回答者数5281
3回目：	2021年3月3日～3月11日・回答者数5234
4回目：	2022年2月10日～2月28日・回答者数10633

回答者の選定方法：日本国内に住む15歳～89歳のインターネットパネル登録モニターを調査対象にしている。登録モニターに対して、回答を募集し、以下にある目標とする割当数に達したところで、募集を締め切った。

対象割当：第1回目、第2回目の際には都道府県別×男女別×年齢層別に層化して割当を行っている（均等割当分に人口比例割当分を加算）。1回目と2回目の回答者には重複はない²。3回目は、1回目か2回目に回答した人を対象に回答者を募集しており、目標サンプル数5000と設定していたところ、不足分は新規で補充している。新規で補充する際には、1回目、2回目と同様の基準で割当を行った。

調査項目：①生活全体の主観的満足度、②生活分野別の重要項目、③生活分野別の主観的満足度、④生活分野別の将来不安度、⑤属性および生活実態

次に一橋大学が実施した調査の概要を紹介する。

一橋大学「コロナ禍の生活影響と行動変容に関する調査」の概要

² 割当の計算方法は同じであるが、実際の割当数は調査により異なる。

調査目的：ポストコロナの経済社会システムに影響を及ぼしつつある人々の行動変容の把握、そして、経済社会システムの変化の方向性の評価・検討等に必要となる多角的な分析に向けて、主要な影響、行動変容や意識の変化を把握すること。

調査方法：インターネット調査

調査期間・回答者数： 1回目：2021年10月27日～11月8日・回答者数5234
2回目：2022年11月2日～11月21日・回答者数3273

回答者の選定方法：日本国内に住む15歳～89歳のインターネットパネル登録モニターを調査対象にしている。登録モニターに対して、回答を募集し、以下にある目標とする割当数に達したところで、募集を締め切った。

対象割当：1回目は、内閣府調査の1～3回目に回答した人を優先して回答者を募集しており、目標回答者数5000と設定していたところ、不足分は新規で補充している。新規で補充する際には、内閣府調査1回目、2回目と同様の基準で割り当てを行った。一橋調査の2回目は調査の回答者は、1回目の回答者に優先的に回答を呼びかけており、結果的に集計対象となるすべての回答者(3273)はすべて1回目にも回答している。さらに、内閣府調査の第1回目から第4回目とも多くが接続している。

調査項目：内閣府の「満足度・生活の質に関する調査」と同様の項目が多く含まれる。これらに加え、緊急事態宣言下の生活環境・行動変容についての設問として、①子供の教育状況、②要介護家族の状況、③自分の勤務形態・教育の状況、④健康・医療受診等の状況、⑤交流等の状況、⑥家庭内の役割分担の状況、⑦生活のデジタル化の状況などが含まれる。第2回目調査ではさらにコロナ禍の主観的評価についての設問が加わっている。

追加調査

内閣府経済社会総合研究所では、2021年11月調査に対し、新規の調査項目を追加した調査を2022年3月16日～3月20日に実施している（回答者数：1008）。今回の調査とも結果的に接続できる回答者が約8割（811）となっている。

② 一橋調査(2021年11月、2022年11月)の回答者の状況

本稿では、一橋大学が実施した調査結果を紹介する。回答者の状況についても2021年11月、2022年11月の一橋大学の調査に絞って属性を紹介する。男女別×年齢層別の回答者の構成比は図表1の通りである³。比較のため総務省統計局による2021年10月時点推計人口の構成比(15～89歳の1億891万人を100%とする)も掲載している。なお、図表1における回答者の年齢層は2021年11月調査時点のものであり、2022年11月調査時点では、回答者の年齢は1歳もしくは2歳上昇している。2021年11月の調査時点では、内閣府の調査と同じ構成を目指しており、都道府県別の割当が入るため、年齢別には、総務省推計人口と

³ 2021年調査の回答者を選定する際に用いた都道府県別×男女別×年齢層別の回答者の割当は参考図表1の通りである。

比較して、やや若年層が多い割当てとなっている。回答者の男女比は総務省の推計値と一致している。一方、2022年11月調査の回収状況を見ると、特に若年層の数が減少している。また、参考図表1②で確認できるが、大都市部において脱落が相対的に少ない。若干女性の割合が減少している。このように2022年調査では、15-24歳の層の回答者が少ないため、結果の解釈には注意が必要である。また、次項目の3. 主な調査結果では、2021年調査の結果も2022年調査に回答した方の分のみを集計しているため、2021年調査の結果についても同様の注意が必要である。

図表1 性×年齢別回答者構成比

	男性			女性		
男性	2021.10 総務省 人口推 計	2021.11 調査	2022.11 調査	2021.10 総務省 人口推 計	2021.11 調査	2022.11 調査
15歳～24歳	5.6%	8.7%	1.2%	5.3%	8.6%	1.0%
25歳～34歳	6.1%	9.0%	5.8%	5.8%	8.9%	6.2%
35歳～44歳	7.3%	9.6%	11.5%	7.1%	9.5%	9.8%
45歳～59歳	12.5%	10.2%	14.4%	12.3%	10.3%	13.4%
60歳～89歳	17.3%	12.0%	18.3%	20.7%	13.2%	18.3%
合計	49%	49%	51%	51%	51%	49%

内閣府の調査、一橋大学の調査の回答者の接続状態をまとめたのが図表2である。一橋大学の2022年11月の調査の回答者は完全に2021年11月の調査と一致している。また、2021年11月の調査が内閣府の調査の回答者との接続を目標として回答者を募集したため、すべての調査で多くの同一回答者からの回答が得られている。接続できる調査の回数・回答者数は、第1回と第2回をまとめてコロナ禍前としてカウントすると、最大で6回、回答者数は676となり、ESRIの追加調査を除くと5回、回答者数は1625となっている。このように回数・回答者数の多い有用なパネルデータセットとなっているが、本稿では主に一橋大学が実施した2回の調査におけるパネルデータのみ（回答者数は3273）を用いた集計結果を紹介する（一部で各回調査のみに回答した結果も含む）。

図表2 各調査における回答者と今回調査の接続状態

	2019 満 足度調 査(第1 回)	2020 満 足度調 査(第2 回)	2021 満 足度調 査(第3 回)	2022 満 足度調 査(第4 回)	2021.11 一橋大 学調査 ※	2022.3 ESRI 追 加調査 ※	2022.11 一橋大 学調査 ※
今回調査と 接続する回 答者数	2072	1201	1834	2823	3273	811	3273

※一橋大学と内閣府との共同研究において実施した調査

3. 主な調査結果

本節では興味深い点に限って、クロス集計を含め、調査結果を説明する。

① 主観的ウェルビーイング

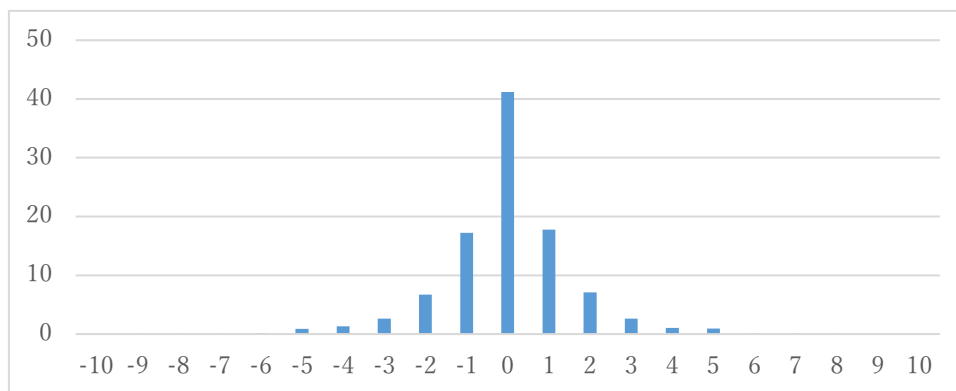
(ア) 生活満足度

生活満足度（「あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。」という質問に対する回答）は、2021年11月の調査平均で5.75と内閣府の2022年2月調査の5.76とほぼ変わらない結果となっている。2021年11月、2022年11月の両方の調査に回答した人だけからなるパネル化後の結果を比較すると、生活満足度ほとんど変わっていない（図表3）。時点が変わっても平均がほとんど変わらず、かつ、他の調査と比較しても平均に大きな違いがないことから、この間に**生活の評価が大きく変わるようなことはなかったこと、さらに調査の精度（信頼性）が十分高いことが確認出来る**。パネル化後の同一の回答者による2021年11月調査から2022年11月調査までの生活満足度の変化幅を見ると（図表4）、ゼロ（＝変化なし）の割合が40%を超えている。また、変化のほとんどはプラスマイナス1の範囲に収まっている。

図表3 生活満足度

	回答者数	平均	標準偏差
2021年11月調査	5234	5.75	2.33
2021年11月調査（パネル化後）	3273	5.71	2.35
2022年11月調査	3273	5.72	2.37

図表4 生活満足度の変化幅の分布（%）



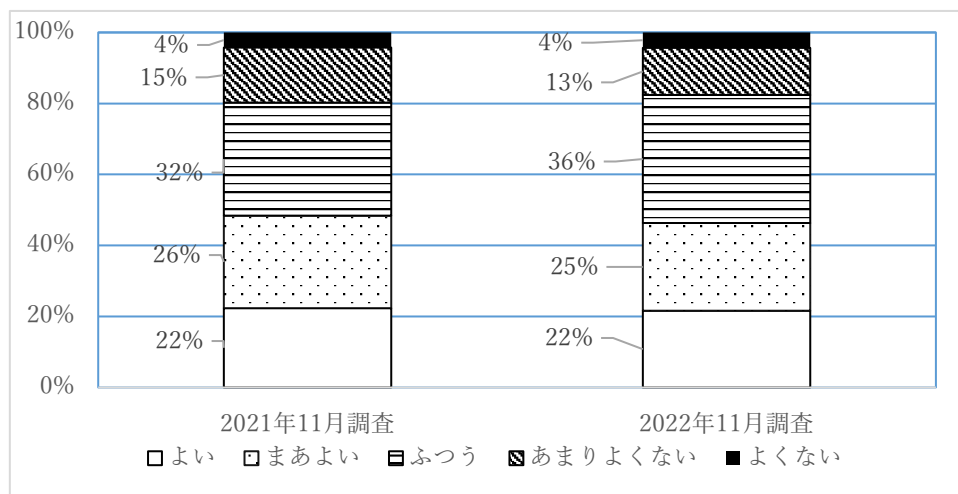
(イ) 主観的健康感

主観的健康感（質問「あなたご自身の健康状態をどのように感じていますか。現在の健康状態、及びコロナ禍の平均的な健康状態のそれぞれに当てはまるものをお答えください。

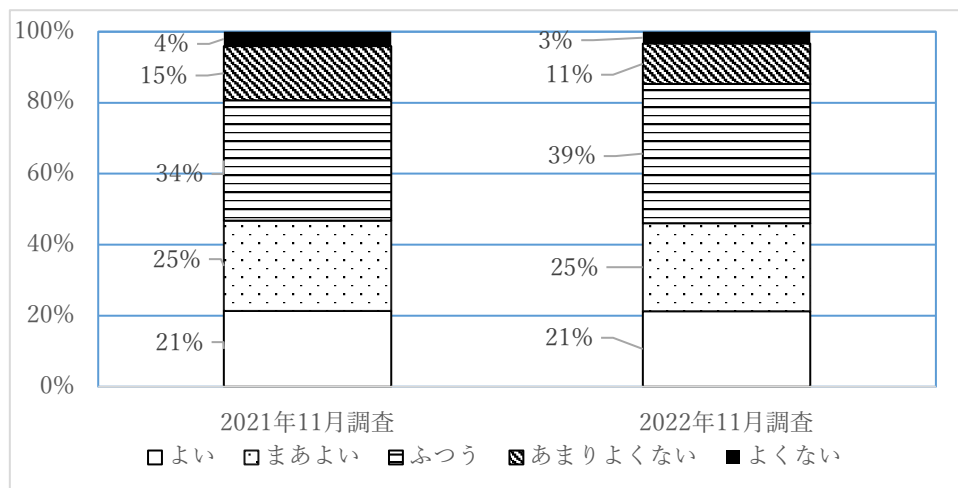
（選択肢：よい～よくない）」に対する回答）の状況を見ると、現在・コロナ禍ともに、2021年11月から2022年11月の間で、「ふつう」という回答割合が増え、他の回答割合が減っていることが分かる。

なお、本調査で回答者に説明した「コロナ禍」の時期は、一回目の調査では、2020年4月から2021年9月末までの時期（実際の質問では「緊急事態宣言下」と表現）を指し、二回目の調査では2022年9月頃まで（実際の質問では「with コロナが始まる前の2年半の間」）を指す。

図表 5①主観的健康感 現在の健康状態



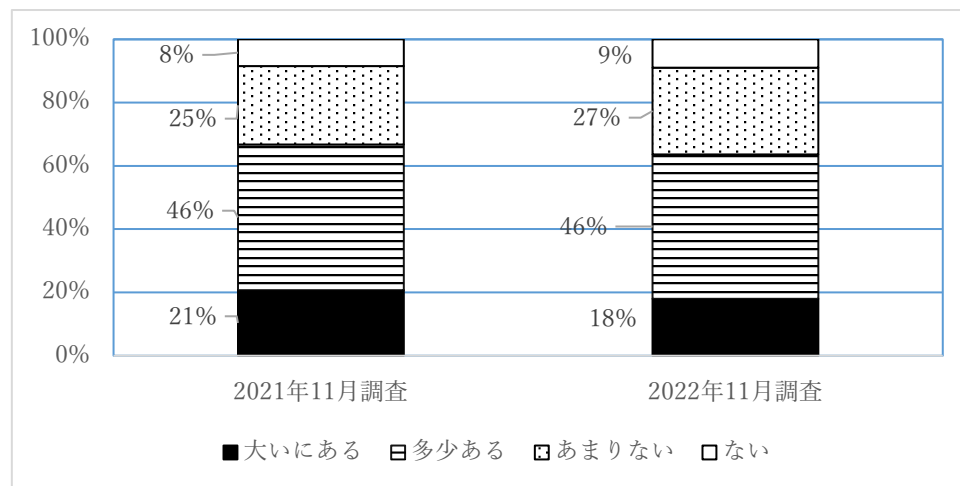
図表 5②主観的健康感 コロナ禍の平均的な健康状態
 (2020年4月～2021年9月、2022年9月)



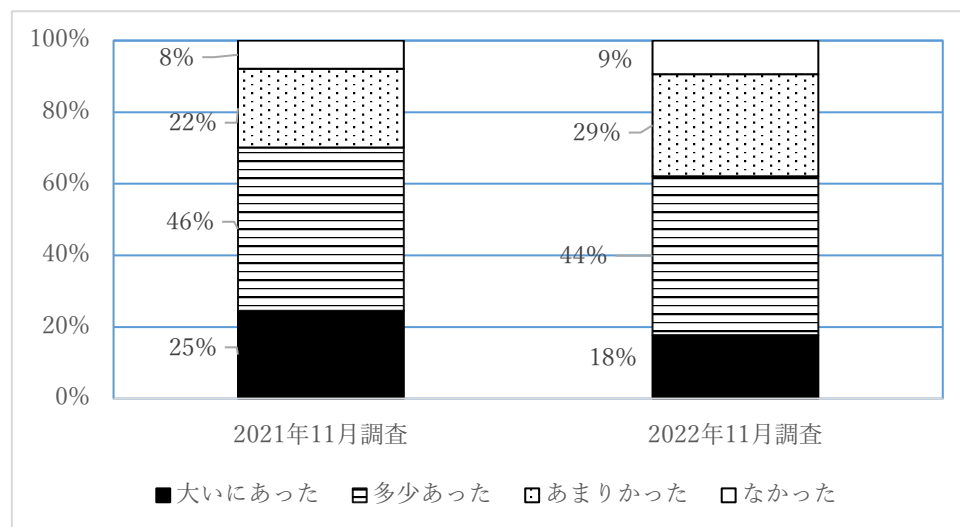
（ウ）ストレス

ストレスの有無に関する質問（「あなたは、日常生活で悩みやストレスがありますか。次の(1)現在の有無～(2)コロナ禍の有無のそれぞれに当てはまるものをお答えください。」）に対する回答結果(図表6①②)を見ると、現在、コロナ禍ともに、「大いにある（あった）」という回答が減少し、「あまりない（なかった）」が増加している。**ストレスがあるとする回答者の減少**が見て取れる。2022年11月には、590名が「大いにある」と回答しているが、2021年11月には、678名であった。但し、2022年11月の調査において、コロナ禍における状態(2020年4月から2022年9月頃)として「大いにあった」を選択した回答者の数は581名であった。各回答者が比較する現在とコロナ禍のストレスの有無でみると、**現在の方がよりストレスがあるとする回答が多い**。

図表6① ストレスの有無 現在の有無



図表6② ストレスの有無 コロナ禍(2020年4月～2021年9月、2022年9月)



② 経験に関する認識

（ア）コロナウィルスへの感染

本調査では、過去1年間に経験したことについて質問する中で、コロナウィルスへの感染経験の有無を尋ねている。図表7①にあるように2021年11月の調査時点では、感染経験があるという回答者の割合は1.2%と非常に低かったが、図表7③にある2022年調査では、**回答者の10.6%が経験ありと回答している**。累計感染者数が2022年11月2日時点で、2218万人（推計総人口1255万人の17.7%（なお2021年11月2日時点では172万人））程度ということからすると、**過小バイアス**が存在する。図表7①では1.2%という感染者の割合が、パネル化するため若年層のサンプル数が減少した2022年調査に合わせた2021年調査の結果の図表7②では、0.8%に縮小しており、2022年調査における過少バイアスには若年層が少ないという回答者の構成比に起因する部分が多い。感染の報告を望ましくないと感じる社会的理由による無回答も過少バイアスに寄与した可能性がある。また、そもそもアンケート調査に感染により死亡した方や重度の後遺症を持つ方が回答することはないため、感染経験についての分析を行うには**データに重大な限界**があり、いずれにせよ分析を行う上では注意が必要である。

図表7① コロナ感染の経験 2021年調査

	なし	あり	合計	感染者の割合	回答者の分布	推計人口の分布
15歳～24歳	884	23	907	2.5%	17.3%	10.7%
25歳～34歳	925	12	937	1.3%	17.9%	11.7%
35歳～44歳	982	16	998	1.6%	19.1%	14.0%
45歳～59歳	1,067	9	1,076	0.8%	20.6%	24.2%
60歳～89歳	1,313	3	1,316	0.2%	25.1%	39.4%
合計	5,171	63	5,234	1.2%	100.0%	100.0%

図表7② コロナ感染の経験 2021年調査 パネル化後

	なし	あり	合計	感染者の割合	回答者の分布	推計人口の分布
15歳～24歳	100	0	100	0.0%	3.1%	10.7%
25歳～34歳	427	4	431	0.9%	13.2%	11.7%
35歳～44歳	722	10	732	1.4%	22.4%	14.0%
45歳～59歳	866	9	875	1.0%	26.7%	24.2%
60歳～89歳	1,132	3	1,135	0.3%	34.7%	39.4%
合計	3,247	26	3,273	0.8%	100.0%	100.0%

図表 7③ コロナ感染の経験 2022 年調査

	なし	あり	合計	感染者の割合	回答者の分布	推計人口の分布
15 歳～24 歳	81	19	100	19.0%	3.1%	10.7%
25 歳～34 歳	365	66	431	15.3%	13.2%	11.7%
35 歳～44 歳	616	116	732	15.8%	22.4%	14.0%
45 歳～59 歳	781	94	875	10.7%	26.7%	24.2%
60 歳～89 歳	1,082	53	1,135	4.7%	34.7%	39.4%
合計	2,925	348	3,273	10.6%	100.0%	100.0%

(イ) テレワーク

テレワークの状況に関する質問「あなたの勤務形態について、当てはまるものをお答えください（選択肢 1 テレワーク（ほぼ 100%）～5 テレワークが該当しない職業）」（就業状態が正規雇用、非正規雇用、会社などの役員、自営業・手伝いを選択した回答者のみ）に対する回答から、2021 年 11 月現在では、テレワークを実施している割合（ほぼ 100%、テレワーク中心、出勤中心でテレワークを併用と回答した人の合計）は、就業者の 15%程度であったが、2022 年 11 月現在では約 19%と、**テレワークする人はこの一年間でやや増加している（図表 8①）**。コロナ禍（2020 年 4 月～2021 年 9 月、2022 年 9 月までの 2 年半）の平均的な状態では、それぞれより高い割合でテレワークを実施し、今後の希望もより高い割合を望んでいた。

図表 8 ① テレワークの状況

	2021 年 11 月調査			2022 年 11 月調査		
	現在	コロナ禍	今後	現在	コロナ禍	今後
1 テレワーク（ほぼ 100%）	181	187	215	233	221	263
2 テレワーク中心（50%以上）で、出勤を併用	73	120	179	88	129	177
3 出勤中心（50%以上）で、テレワークを併用	84	173	253	96	157	237
4 出勤（ほぼ 100%）	733	605	511	634	565	460
5 テレワークが該当しない職業	1,151	1,137	1,064	1,173	1,152	1,087
合計	2222	2222	2222	2224	2224	2224
テレワーク率(1+2+3)	15.2%	21.6%	29.1%	18.8%	22.8%	30.4%

現在の勤務状況に関する回答の変化（図表 8②）を見ると、**回答者の勤務状態は 2021 年 11 月からの 1 年間で様々に変わっている**ことが分かる。2021 年 11 月現在で「ほぼテレワーク」と回答した 181 名（表の 2 行目の最後の列）、2022 年 11 月時点でもほぼテレワークと

回答した人は65名(表の2行目の2列目)に過ぎない。人事異動等も影響していると考えられるが、テレワークは柔軟に利用されながら定着してきていると考えられる。

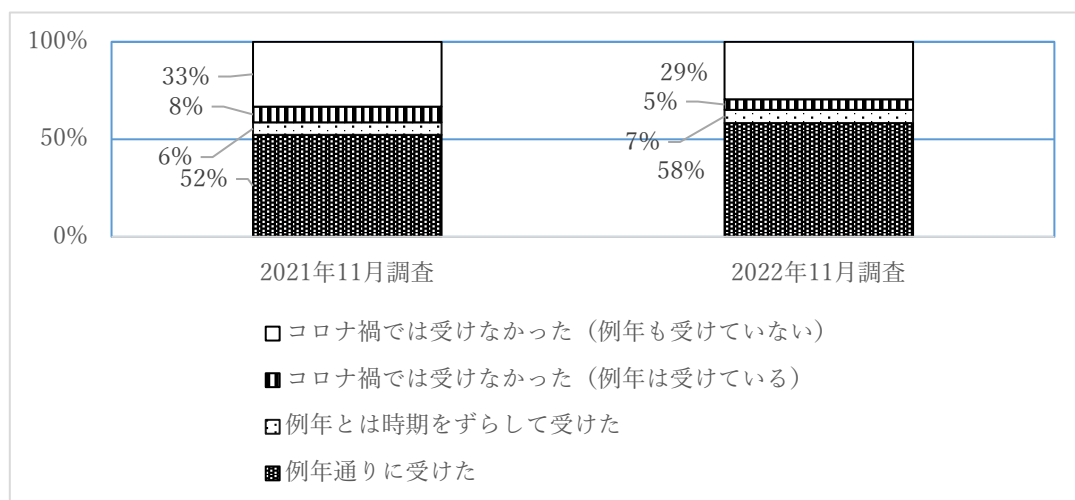
図表 8②テレワーク勤務の1年間の変化

		2022年11月現在の勤務の状況						
		0	1	2	3	4	5	合計
2021年11月現在の勤務の状況	0 対象外就業状態	921	18	7	4	30	71	1,051
	1 テレワーク（ほぼ100%）	13	65	18	7	29	49	181
	2 テレワーク中心（50%以上）で、出勤を併用	6	12	30	13	10	2	73
	3 出勤中心（50%以上）で、テレワークを併用	2	9	10	31	26	6	84
	4 出勤（ほぼ100%）	35	49	17	32	351	249	733
	5 テレワークが該当しない職業	72	80	6	9	188	796	1,151
	合計	1,049	233	88	96	634	1,173	3,273

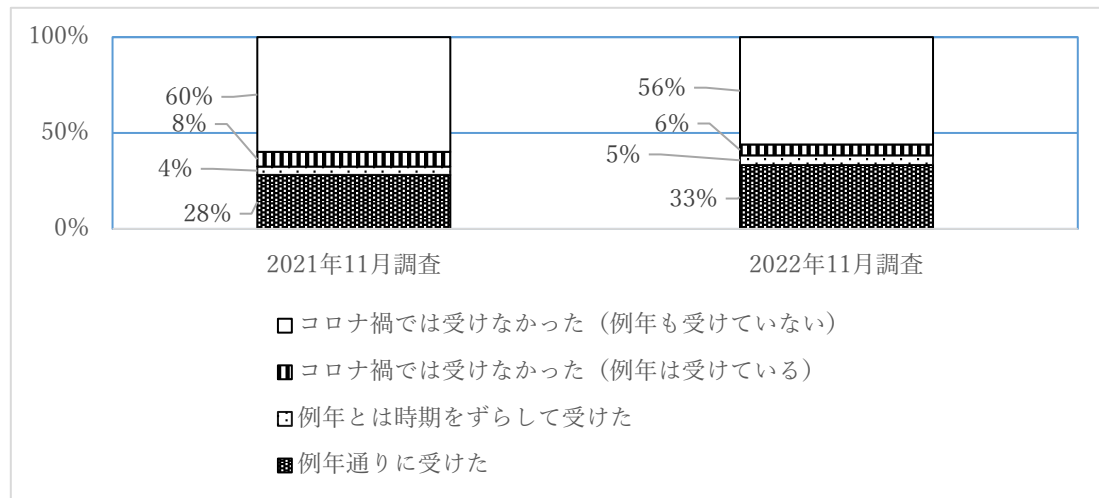
（ウ）健診・検診頻度

健診・健診の頻度に関する質問「あなたは、コロナ禍に、以下の健康診断等を受けましたか。次の（1）健康診断や人間ドック～（2）がん検診、それぞれに当てはまるものをお答えください。」に対する回答を見ると、2022年11月には、2021年11月と比較し、「例年通り受けた」という回答が増加し、「受けなかった」という回答がそれぞれ減少していた。コロナ前への正常化が進んでいるものの、5～6%が「例年は受けているのに受けなかった」と回答している。

図表 9 ①健康診断や人間ドックの受診の有無



図表 9 ②がん検診の受診の有無



（エ）ワクチン接種

新型コロナワクチンの接種回数に関する質問に対し、調査時点により、そもそも実施されていた接種回数が異なるため、比較ができないが、2回接種が概ね終了した2021年11月時点ではほとんどの人(82%)が2回目を接種したと回答していた。4回目接種が進んでいた2022年11月時点では、4割程度の人がそれぞれ4回目、3回目を接種していた。2022年11月時点でも**11%が接種していない**と回答していた。

図表 10 新型コロナワクチン接種回数

	合計	4回接種した	3回接種した	2回接種した	1回接種した	接種していない
2022年11月回答者数	3273	1352	1186	355	13	367
構成比	100%	41%	36%	11%	0%	11%
2021年11月回答者数	3273	0	0	2678	157	438
構成比	100%	0%	0%	82%	5%	13%
構成比（2022-2021）	0%	41%	36%	-71%	-4%	-2%

（オ）オンライン診療

オンライン診療の経験に関する質問について、継続的に通院している方に限定して集計したところ、コロナ禍でオンライン診療を受けた人の数は少ないものの、存在し、1年間で**経験者は増加**している。

図表 11 ①オンライン診療の経験

	合計	コロナ禍でオンライン診療を受け、現在もオンライン診療を受けている	コロナ禍でオンライン診療を受けたが、現在はオンライン診療を受けていない	コロナ禍でオンライン診療を受けていなかったが、現在はオンライン診療を受けている	コロナ禍も現在もオンライン診療を受けていない
2022 年 11 月回答者数	1734	27	86	22	1599
構成比	100%	2%	5%	1%	92%
2021 年 11 月回答者数	1681	22	53	16	1590
構成比	100%	1%	3%	1%	95%
構成比（2022-2021）	0%	0%	2%	0%	-2%

一方、オンライン診療の今後の希望に関する質問への回答を見ると、ぜひ受けたい(3%)、多少は受けたい(19%)という回答を合わせると 2022 年 11 月時点でも 22%となり、経験したことがある回答者（2%+5%=7%）より3倍以上、割合が多い。しかし、2021 年 11 月時点(5%+25%=30%)と比較すると**オンライン診療の受診希望は減少**している。

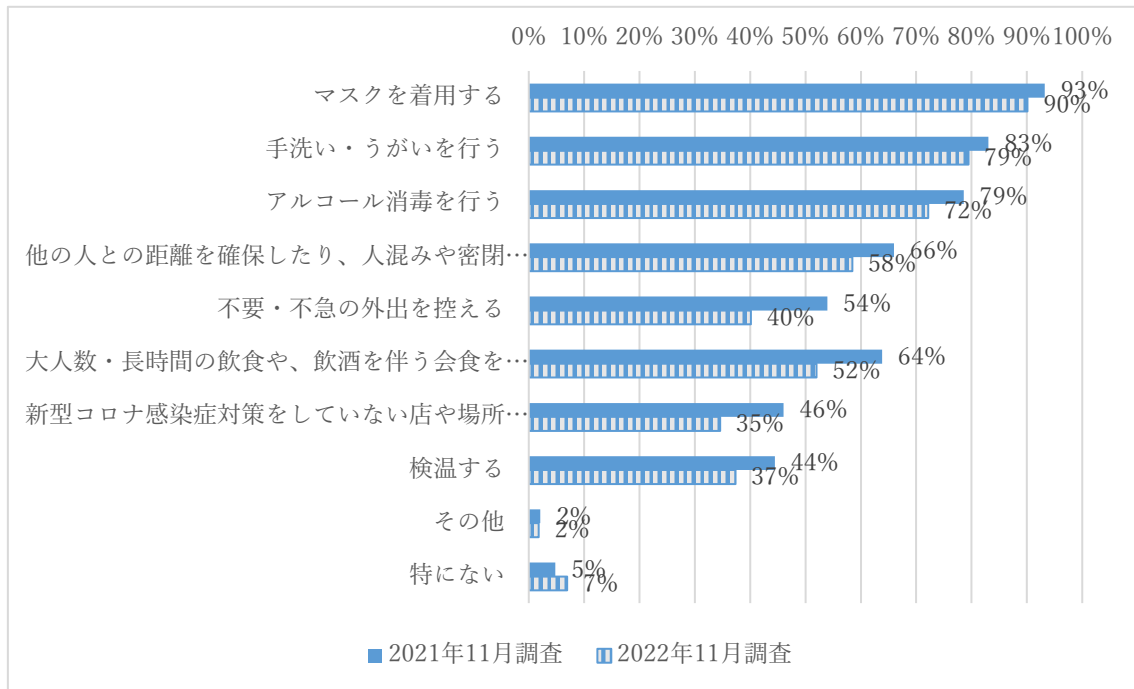
図表 11②オンライン診療の希望

	合計	ぜひ受けたい	多少は受けたい	あまり受けたくない	受けたくない	わからない
2022 年 11 月回答者数	3273	102	627	798	850	896
構成比	100%	3%	19%	24%	26%	27%
2021 年 11 月回答者数	3273	168	808	750	649	898
構成比	100%	5%	25%	23%	20%	27%
構成比（2022-2021）	0%	-2%	-6%	1%	6%	0%

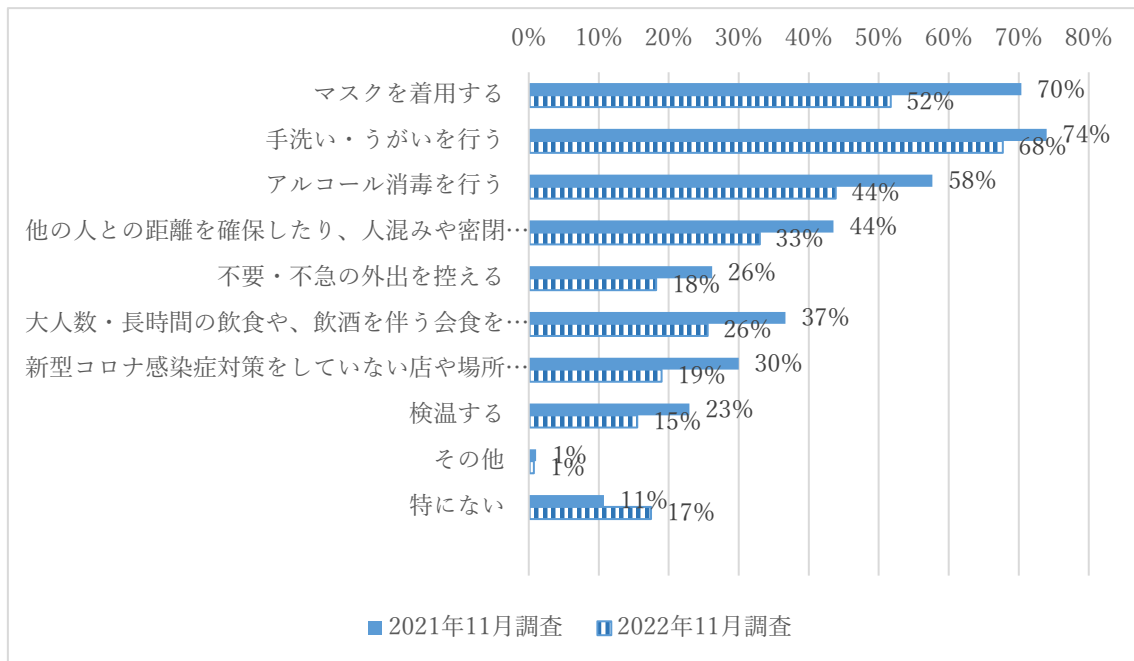
（カ）感染症対策

感染症対策に関する質問「あなたは、新型コロナウイルス感染症に対する日常の対策としてどのような行動をとっていますか。次の（1）現在行っている行動～（2）感染の脅威が低くなっても継続したい行動のそれぞれに当てはまるものをすべてお答えください。」に対する回答は図表 12 の通りである。2022 年 11 月時点でマスクを着用すると回答した人の割合は依然 9 割と高いものの、**不要・不急の外出を避けるなど、接触頻度を下げる行動について選択する回答者が減少**している。感染の脅威が低くなっても継続したい行動では、「マスクを着用する」の減少割合が大きいですが、水準としては 2022 年 11 月時点でも **52%と半数を超えている**。

図表 12 感染症対策 ①現在



図表 12 感染症対策 ②感染の脅威が低くなっても継続したい行動



③ 2022 年 11 月調査のみに含まれる項目

（ア）コロナ禍の収束に関する認識

ここからは、2022 年 11 月調査のみに含まれる項目のうち、興味深い結果について説明する。コロナの収束の認識に関する質問「あなたは、コロナ禍についてどのようにとらえていますか。次の中から最も近いものを選んでください。」に対する回答結果は、図表 13 の通りであり、2022 年 11 月時点では、**半数以上の人(55%)がコロナ禍は収束しないと回答した**。

図表 13 コロナ禍の収束の認識

	合計	既に収束した	まだ収束していないが、収束に向かっていく	収束しない	わからない
2022 年 11 月回答者数	3273	129	970	1814	360
構成比	100%	4%	30%	55%	11%

（イ）今後のワクチン接種意向

今後のワクチンの接種意向についての質問「あなたは今後、政府・専門家からワクチン接種が求められた場合、新型コロナワクチンを接種したいと思いますか。」に対する回答結果は図表 14 の通りであり、**60%以上(=30%+31%)の人が接種する意向を示した**。15%の人は全く接種したいと思わないと回答しているが、これはワクチンを「接種していない」と回答した人の割合（11%）より若干多い。

図表 14 新型コロナワクチン接種意向

	合計	ぜひ接種したいと思う	どちらかといえば接種したいと思う	どちらかといえば接種したくない	まったく接種したくない	どちらともいえない
2022 年 11 月回答者数	3273	973	1021	533	475	271
構成比	100%	30%	31%	16%	15%	8%

4. 結び

本調査は、パネル化した上でマイクロ分析に用いるためのデータの収集が目的であり、多くの研究者により今後様々な分析が行われることを期待するが、単純集計値の1年間の比較からも、この間に起きた変化を見ることができる。本調査からは、2021 年 11 月からの一年間に回答者の生活全般の評価である生活満足度には変化がなかった一方、ストレスが低下していることや、健診を受ける割合が回復しつつあることなどが分かった。2022 年 11 月時点ではテレワークが定着する動きがみられることや、今後のワクチン接種に積極的な人が多いこと、感染予防行動も多く維持されていることなど、長期にわたる行動変容が起きていることも垣間見えた。

参考文献

桑原進、近藤雄介、村舘靖之、小塩隆士(2022)「コロナ禍の生活環境と行動変容に関する追加調査—結果報告」、ESRI Research Note No.71、内閣府経済社会総合研究所

桑原進、村舘靖之、小塩隆士(2022)「政府等への信頼が促進するワクチン接種」、ESRI Discussion Paper 371, 内閣府経済社会総合研究所

内閣府経済社会総合研究所『経済分析』第 204 号 2022 年

内閣府経済社会システム統括官(2019-2022)「満足度・生活の質に関する調査」第1回から第4回報告書。以下リンクで入手可能(2023/1/17 現在)。

<https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/manzoku/index.html>

Takashi Oshio, et al(2022)”Pre-pandemic social isolation as a predictor of the adverse impact of the pandemic on self-rated health: A longitudinal COVID-19 study in Japan“, Preventive medicine 107329-107329

Takashi Oshio, et al(2022)” At Which Area Level Does COVID-19 Infection Matter Most for an Individual's Self-Rated Health? A Multilevel Fixed-Effects Model Analysis in Japan”, Int J Environ Res Public Health. 2022 Jul 22;19(15):8918.

参考図表

図表 1① 2021 年 11 月調査における都道府県・性・年齢別回答者数

	男性					女性					合計
	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～59歳	60歳以上	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～59歳	60歳以上	
北海道	11	12	13	15	20	11	12	13	16	24	147
青森県	9	9	9	9	11	9	9	9	10	12	96
岩手県	9	9	9	9	11	9	9	9	9	11	94
宮城県	9	9	10	11	13	9	9	10	11	14	105
秋田県	8	9	9	9	10	8	8	9	9	11	90
山形県	9	9	9	9	10	9	9	9	9	11	93
福島県	9	9	9	10	12	9	9	9	10	13	99
茨城県	10	10	11	12	14	9	10	10	12	15	113
栃木県	9	9	10	10	12	9	9	10	10	13	101
群馬県	9	9	10	10	12	9	9	10	10	13	101
埼玉県	13	14	16	18	23	13	14	16	18	25	170
千葉県	12	13	15	17	21	12	13	14	16	23	156
東京都	18	22	24	28	32	18	21	24	27	37	251
神奈川県	15	16	18	22	26	14	15	18	21	28	193
新潟県	9	9	10	11	13	9	9	10	11	14	105
富山県	9	9	9	9	10	8	9	9	9	11	92
石川県	9	9	9	9	10	9	9	9	9	11	93
福井県	8	8	9	9	9	8	8	9	9	10	87
山梨県	8	8	9	9	9	8	8	9	9	10	87
長野県	9	9	10	11	13	9	9	10	11	14	105
岐阜県	9	9	10	10	12	9	9	10	10	13	101
静岡県	10	11	12	13	16	10	10	11	13	18	124
愛知県	14	15	17	18	22	13	14	16	18	25	172
三重県	9	9	9	10	12	9	9	9	10	13	99
滋賀県	9	9	9	9	10	9	9	9	10	11	94
京都府	10	10	10	11	13	10	10	10	11	15	110
大阪府	14	15	17	20	26	14	15	18	20	30	189
兵庫県	12	12	13	15	19	12	12	14	16	22	147
奈良県	9	9	9	9	11	9	9	9	10	11	95
和歌山県	8	9	9	9	10	8	9	9	9	10	90
鳥取県	8	8	8	9	9	8	8	8	9	9	84
島根県	8	8	8	9	9	8	8	8	9	10	85
岡山県	9	9	9	10	12	9	9	9	10	13	99
広島県	10	10	11	11	14	9	10	11	12	15	113
山口県	9	9	9	9	11	9	9	9	9	12	95
徳島県	8	8	9	9	9	8	8	9	9	10	87

香川県	8	9	9	9	10	8	9	9	9	10	90
愛媛県	9	9	9	9	11	9	9	9	10	12	96
高知県	8	8	9	9	9	8	8	9	9	10	87
福岡県	11	12	13	14	18	11	12	13	15	21	140
佐賀県	8	8	9	9	9	8	8	9	9	10	87
長崎県	9	9	9	9	11	9	9	9	10	12	96
熊本県	9	9	9	10	12	9	9	9	10	13	99
大分県	9	9	9	9	10	9	9	9	9	11	93
宮崎県	9	9	9	9	10	9	9	9	9	11	93
鹿児島県	9	9	9	10	11	9	9	9	10	12	97
沖縄県	9	9	9	10	10	9	9	9	10	10	94
合計	456	471	500	535	627	451	466	498	541	689	5,234

参考図表 1② 2022 年 11 月調査における都道府県・性・年齢別回答者数

	男性					女性					合計
	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～59歳	60歳以上	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～59歳	60歳以上	
北海道	1	3	10	14	17	0	2	8	14	21	90
青森県	0	2	5	7	12	0	5	6	8	11	56
岩手県	2	2	7	8	9	0	3	4	6	10	51
宮城県	1	2	9	11	14	0	4	10	10	11	72
秋田県	1	0	7	6	9	0	3	6	2	11	45
山形県	0	3	5	11	11	1	7	5	6	11	60
福島県	1	5	7	6	12	1	3	7	8	13	63
茨城県	0	3	8	12	14	1	1	10	9	13	71
栃木県	0	4	8	12	10	1	4	7	6	11	63
群馬県	1	3	5	9	11	0	5	7	8	10	59
埼玉県	2	7	10	21	20	2	5	10	14	20	111
千葉県	1	9	14	13	24	0	4	9	17	18	109
東京都	3	16	17	22	30	0	15	17	25	34	179
神奈川県	1	12	17	18	26	2	6	10	20	28	140
新潟県	2	4	10	7	13	1	2	3	13	12	67
富山県	0	4	7	7	11	1	6	9	9	7	61
石川県	1	2	5	8	10	0	3	5	9	10	53
福井県	0	3	2	8	9	1	6	6	7	9	51
山梨県	0	3	6	7	8	1	3	3	7	7	45
長野県	2	5	5	13	13	0	5	6	10	11	70
岐阜県	1	1	8	9	11	0	3	5	6	12	56
静岡県	1	2	8	11	13	2	3	6	13	17	76
愛知県	2	6	8	22	19	1	13	14	16	21	122
三重県	0	5	7	9	13	2	4	4	7	9	60
滋賀県	1	2	4	11	10	0	2	2	6	8	46
京都府	2	1	9	11	10	0	5	8	13	12	71
大阪府	3	7	14	15	27	1	12	12	19	28	138

兵庫県	0	8	15	11	21	1	6	8	11	20	101
奈良県	0	2	7	8	11	1	4	8	6	13	60
和歌山県	0	2	9	7	7	0	4	6	8	9	52
鳥取県	0	4	8	6	9	0	3	3	4	7	44
島根県	0	3	7	9	10	2	2	7	8	9	57
岡山県	1	5	7	9	9	0	3	5	9	10	58
広島県	1	7	11	7	12	1	5	7	13	12	76
山口県	1	0	9	8	11	0	3	6	8	9	55
徳島県	1	5	8	6	10	1	1	6	5	7	50
香川県	0	1	6	5	10	1	1	9	6	13	52
愛媛県	1	4	8	6	12	1	3	9	5	11	60
高知県	0	3	8	8	9	1	1	5	7	7	49
福岡県	1	7	11	10	15	1	7	8	9	18	87
佐賀県	1	4	6	8	8	1	7	5	6	7	53
長崎県	1	3	7	7	12	2	4	3	7	12	58
熊本県	0	3	8	12	11	1	3	4	13	11	66
大分県	0	0	7	7	10	0	3	5	6	9	47
宮崎県	0	2	3	8	9	0	4	5	7	11	49
鹿児島県	1	5	6	9	8	0	1	8	8	9	55
沖縄県	0	6	5	11	10	1	4	6	6	10	59
合計	38	190	378	470	600	33	203	322	440	599	3273